



「外為短期投資家動向調査」結果

<第17回調査>

2010年11月1日

【本調査の目的】

2009年6月の第1回調査を皮切りに、(株)外為どっとコムは、口座開設者のお客様を対象として、「投資動向等に関するアンケート調査」を毎月定期的を実施しておりましたが、2010年8月の第15回調査より、その名称を「外為短期投資動向調査(略称:外為短観)」に改めました。本レポートは、同調査の結果に基づき、(株)外為どっとコム総合研究所がその一部を取りまとめるという形で対外的に公表するものです。

近年の外国為替市場において、本邦の外国為替保証金取引への関心が強まっているのは周知の通りですが、その実像を把握するのに必要な統計データ等の整備は、既存のマクロ経済データや金融関連データなどに比べて、遅れているのが実情です。今後こうした調査を継続的に実施することで、時系列で比較した個人投資家層の相場感の変化や投資家属性別の投資動向の特徴などを精査し、当社の調査研究活動の深化につなげるとともに、その一部を社会に還元することが、本調査の目的です。

また、本調査におきましては、国内外の国政選挙など、市場参加者が注目する各種イベント前後の時期に、不定期のアンケート調査の結果も公表いたします。定点観測の調査結果と合わせて、ご参考にして頂ければ幸いです。

【調査実施期間】

2010年10月20日(水)13:00～2010年10月27日(水)13:00
※毎月中旬から下旬にかけての1週間を調査期間としています。

【調査対象】

(株)外為どっとコムの『外貨ネクスト』に口座を開設のお客様層

【調査方法】

(株)外為どっとコムの取引画面内にアンケートを公開。
今回の有効回答数は、512件。
※必要項目を全て入力して回答して頂いたお客様を「有効回答数」としました。

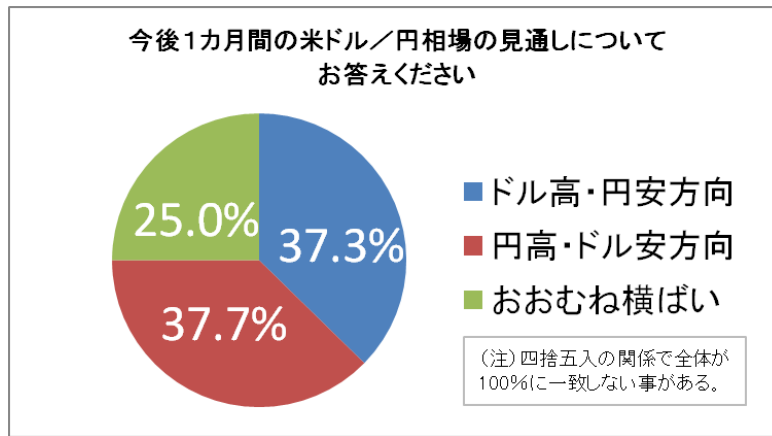
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【第17回調査結果略報：ドル円予想DIは円高円安がほぼ均衡に】

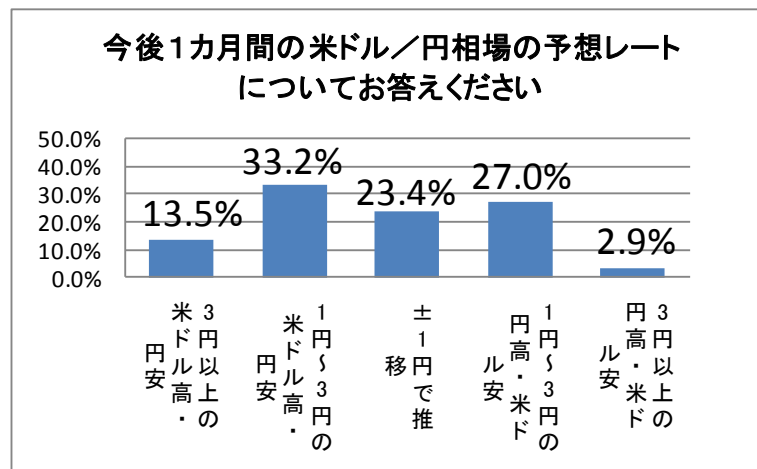
問1：今後1カ月間の米ドル／円相場の見通しについてお答えください

「今後1ヶ月間のドル円相場見通し」については、「ドル高・円安方向」と答えた割合が37.3%であったのに対し、「円高・ドル安方向」と答えた割合が37.7%となった。この結果、「ドル円予想DI」は▲0.4%ポイントとなり、前回調査の▲21.6%ポイントからマイナス幅が縮小し、円高と円安を予想する向きがほぼ均衡する結果となった。調査期間中のドル円相場は81円台後半から15年半ぶりの円高水準（1ドル＝80.40円）を付けた後、米国債利回りの上昇等を背景に82円近辺まで小反発する展開となり、ドル円相場については円高トレンドからの転換点にさしかかっていると見るFX投資家が徐々に増えてきた様子がうかがえる。



問2：今後1カ月間の米ドル／円相場の予想レートについてお答えください

「今後1ヶ月間のドル円相場の予想レート」については、「1円～3円の米ドル高・円安」が33.2%と最も多く、次いで「1円～3円の円高・米ドル安」が27.0%、「±1円で推移」が23.4%、「3円以上の米ドル高・円安」が13.5%、「3円以上の円高・米ドル安」が2.9%の順になった。ヒストグラムの形状は、問1で円高と円安を予想する向きがほぼ均衡する結果となったことを、反映するかのようには描写されている。前回の調査と同様に極端な円高や円安を予想する向きは少数であるが、やや円高方向に傾いていたFX投資家層のマインドが、わずかながら円安方向へと転換しつつある様子が見られる。

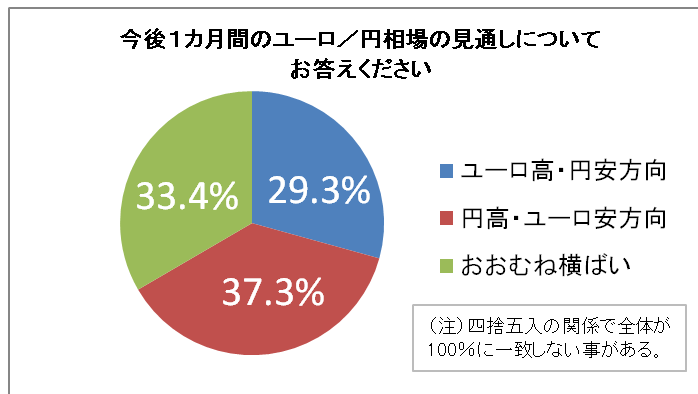


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

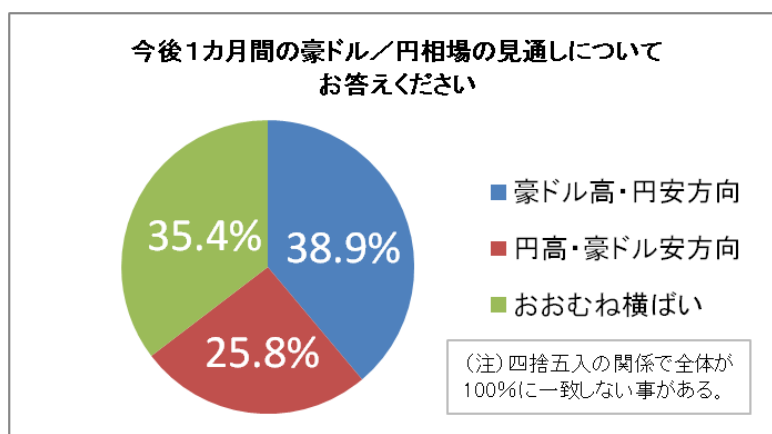
問3: 今後1カ月間のユーロ/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間のユーロ円相場の見通し」については、「ユーロ高・円安方向」と答えた割合が29.3%であったのに対し、「円高・ユーロ安方向」と答えた割合が37.3%となった。この結果、「ユーロ円予想DI」は▲8.0ポイントとなり、前回調査の+0.9ポイントからわずかながら円高方向に転換した。調査期間のユーロ円相場は、111円台半ばから上昇し114円台目前で失速すると緩やかに下落する展開となった。今回のユーロ円予想DIの円高転換は、相場つきに敏感に反応し見通しを機動的に入れ替えるFX投資家層の特性が、健在だということを表している。



問4: 今後1カ月間の豪ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1ヶ月間の豪ドル円相場見通し」については、「豪ドル高・円安方向」と答えた割合が38.9%であったのに対し、「円高・豪ドル安方向」と答えた割合が25.8%となった。この結果、「豪ドル円予想DI」は+13.1%ポイントとなり、今回も引き続き豪ドル高・円安方向になったものの前回調査の+25.3%ポイントから下落した。調査期間中の豪ドル円相場は、概ね78円台後半から80円台半ばの間で推移した。11月初旬の豪準備銀行理事会で政策金利の引き上げ再開気運が高まっているものの、豪ドル円の上値の重さがFX投資家層の強気のセンチメントの腰を折る形となり、DIポイントが伸び悩む結果となったと言える。

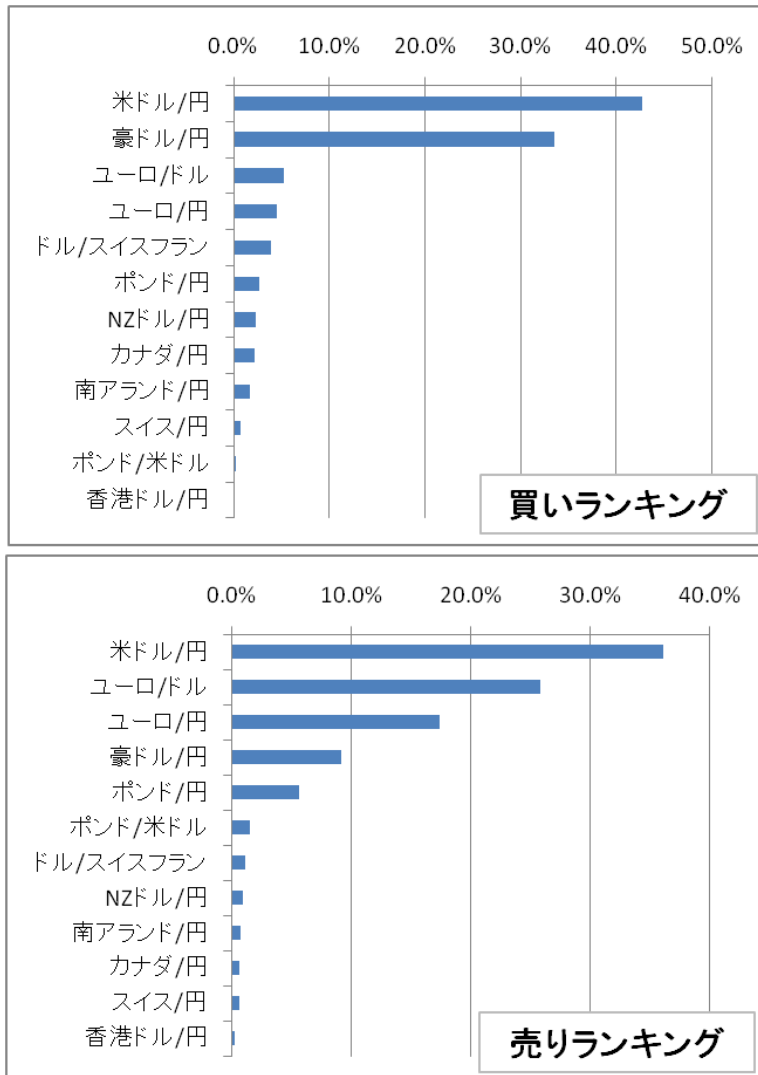


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問5: 今後、注目の通貨ペアについてお答えください

「今後注目している通貨ペア」について尋ねたところ、「買い」で注目されている通貨ペアは、1位米ドル円(42.8%)、2位豪ドル円(33.6%)、3位ユーロドル(5.3%)、4位ユーロ円(4.5%)、5位はドルスイス(3.9%)となった。一方、「売り」で注目されている通貨ペアは、1位米ドル円(36.1%)、2位ユーロドル(25.8%)、3位ユーロ円(17.4%)、4位豪ドル円(9.2%)、5位ポンド円(5.7%)となった。「買い」で注目の通貨ペアは、7ヶ月連続で1位の座をキープしていた豪ドル円を抜いて1位となった米ドル円で、回答率も前回の24.6%から42.8%へと急上昇した。一方、「売り」で注目の通貨ペアでは、4ヶ月連続でドル円が首位の座をキープした。ただ、その回答割合は前回の46.3%から36.1%へと下落しており、さらに2位のユーロドルとの差も10.3%とアドバンテージは少ない。また、問1の回答結果で、ドル円予想DIが▲0.4%ポイントと、FX投資家層ではドル強気派と弱気派がほぼ均衡したことと総合的な結果と言える。

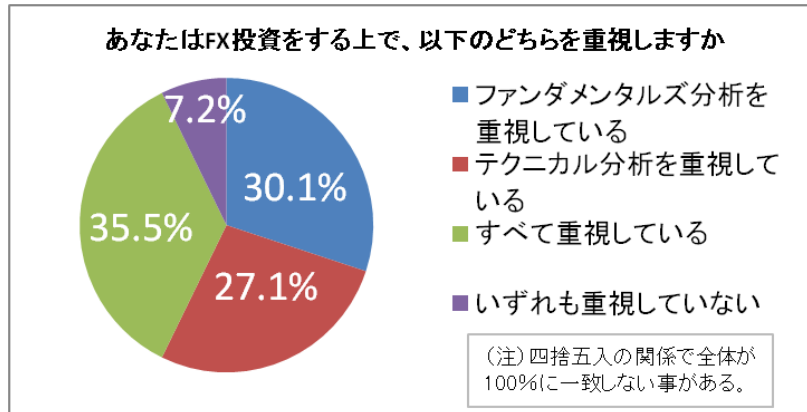


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

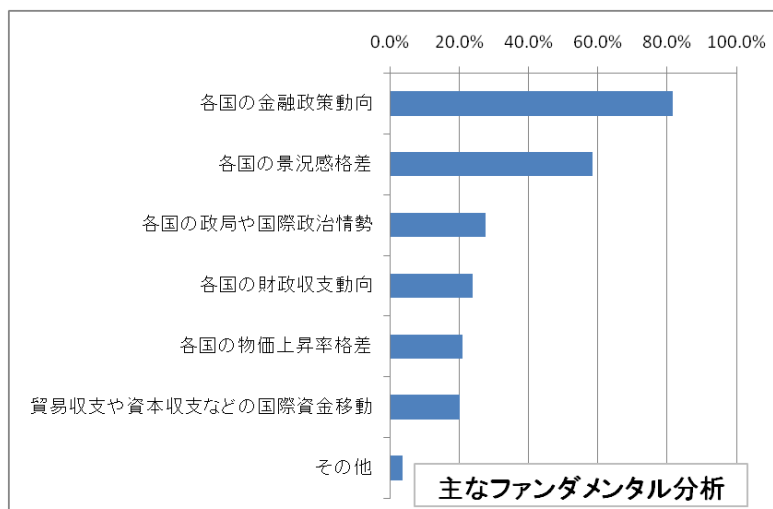
問6: あなたはFX投資をする上で、以下のどちらを重視しますか?

「FX投資の際に重視する分析手法」については、「ファンダメンタルズ分析を重視する」と答えた割合が30.1%であったのに対し、「テクニカル分析を重視する」と答えた割合が27.1%と、前回に引き続きファンダメンタルズ重視派がやや上回った。また、最も多かった「すべて重視している」も前回調査と同様で、その回答割合も35.5%（前回36.4%）とほぼ変化はなかったが、FX投資家が投資戦略を組み立てる上で、ファンダメンタルズ・テクニカルの両方を重視する傾向は、不変のものになりつつあると言える。



問7: ファンダメンタルズ分析では何を主に活用していますか?

「ファンダメンタルズ分析で主として活用する相場動向要因」について複数回答可として尋ねたところ、「各国の金融政策動向(81.8%)」と答えた割合が最も多く、「各国の景況感格差(58.4%)」、「各国の政局や国際政治情勢(27.6%)」、「各国の財政収支動向(23.9%)」、「各国の物価上昇率格差(20.9%)」の順に続いた。調査期間中の市場のテーマは、飽きられてきた感もありつつも引き続き米国の金融緩和の規模や内容等、各国の金融政策の対比がメインとなっていたこともあり、前回調査に続いて8割以上のFX投資家が各国の金融政策動向に注目していることが示された。

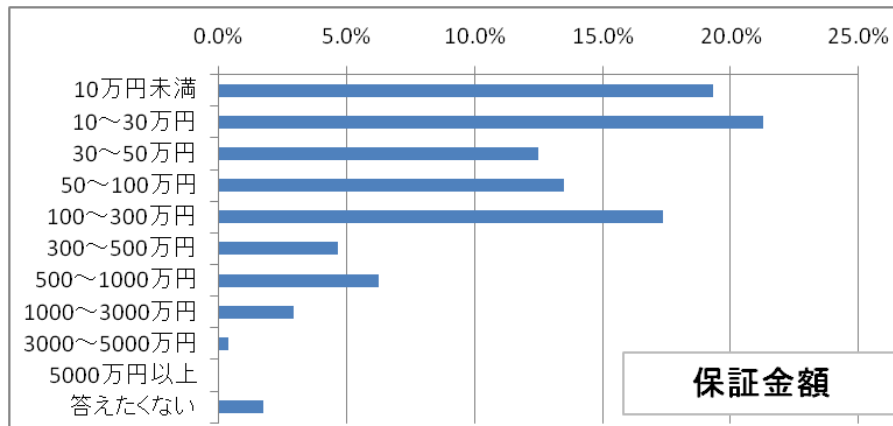


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

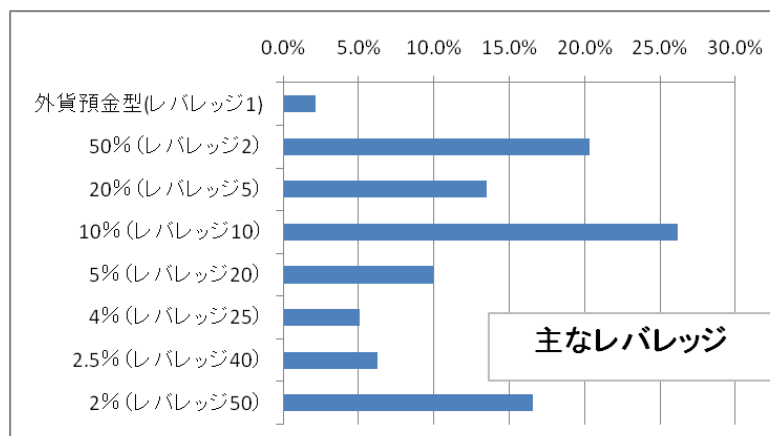
問8: FX取引の際の保証金の額についてお答えください

「FX取引の際の保証金の額」について尋ねたところ、「10～30万円(21.3%)」と答えた割合が最も多かった。以下、「10万円未満(19.3%)」、「100～300万円(17.4%)」、「50～100万円(13.5%)」、「30～50万円(12.5%)」となった。50万円以下の保証金で取引をするFX投資家が半数を占めている傾向は変わらないが、前回首位の「10万円未満」が2位に後退し、前回4位の「10～30万円」が首位となった。これは小額の取引においてもレバレッジ規制の影響により、取引量はそのまま保証金を多めに積み増していることが推測される結果となった。



問9: FX投資の際、主に何倍のレバレッジを活用していますか？

「FX投資の際に主として活用している保証金率(レバレッジ)」について尋ねたところ、「10%(レバレッジ10)」と答えた割合が26.2%と最も多く、以下、「50%(レバレッジ2)」が20.3%、「2%(レバレッジ50)」が16.6%、「20%(レバレッジ5)」が13.5%、「5%(レバレッジ20)」が10.0%と続いた。前回に引き続き最も多く利用されている「10%(レバレッジ10)」は、回答割合もほぼ同じであったが、次に利用されているレバレッジが、「2%(レバレッジ50)」から「50%(レバレッジ2)」へ入れ替わる結果となった。これは高レバレッジを好む一方で、低レバレッジについてもほぼ同様に利用しているFX投資家層が存在し、レバレッジを利かせた保証金取引においても運用方法が短期と長期に分かれているということが見て取れる。

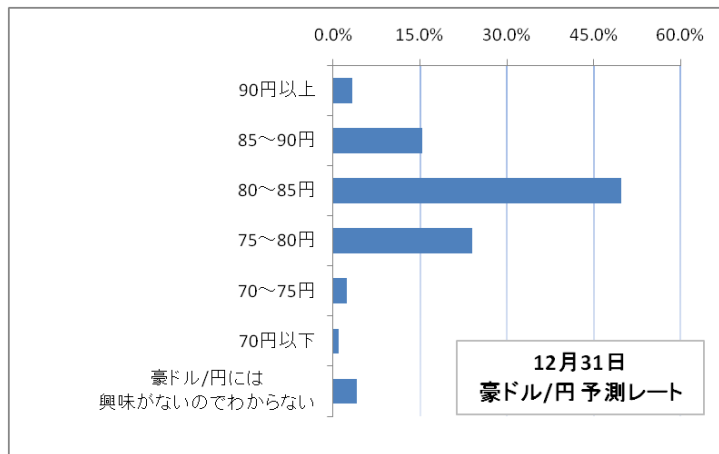


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

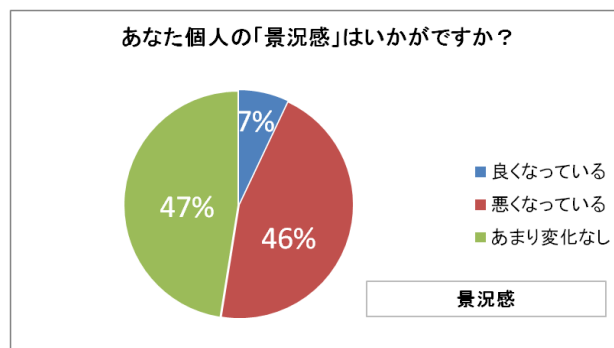
問10: 2010年12月31日ニューヨーククローズ時点の豪ドル/円の予想レートをお答えください(ひとつだけ)その理由と考えられる事項がありましたらお答えください

今月の特別質問項目として、「2010年12月31日ニューヨーククローズ時点の豪ドル/円の予想レートをお答えください(ひとつだけ)」と尋ねたところ、「80～85円」(49.8%)が最も多く、約半数を占めた。以下「75～80円」(24.0%)、「85～90円」(15.4%)の順となり、この3件の回答で90%近くを占めた。調査期間中の豪ドル/円相場の動きは、78円台後半から80円台半ばまで上昇し、再度78円台へ下落する往來の上下動となったが、この結果からFX投資家において、豪ドル/円相場の核となる想定レンジにつき「75～85円」(計73.8%)を大きく逸脱しないと見ている向きが大勢を占めていることが見て取れた。



問11: あなた個人の「景況感」はいかがですか？(ひとつだけ)

今月の特別質問項目として、「あなた個人の『景況感』はいかがですか？(ひとつだけ)」と尋ねたところ、「良くなっている」と答えた割合が7.0%、「悪くなっている」が45.5%、「あまり変化なし」が47.5%という結果になった。7月調査で同じ質問をした当時と比較すると「良くなっている」と答えた割合が15.9%から8.9%ポイント減少し、「悪くなっている」と答えた割合が30.2%から15.3%ポイント増加となっている。この結果、いわゆる景況感格差は7月調査の▲14.3%ポイントから大幅に悪化し▲38.5%ポイントとなった。9月中旬に6年半ぶりに実施された本邦当局の円売り介入をもってしても、5月以来降続している円高・ドル安の動きを止めることができず、また他国に比べ本邦株価が伸び悩んでいることもあり、FX投資家の景況感が前回に続きさらに急速に悪化したものと推測される。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【今後の調査実施計画及び公表方針】

本調査も第17回目となりました。前月との対比での時系列比較は徐々に可能になり始めていますが、まだ開始後1年程度ということもあり、前年同期との比較に十分な調査結果の蓄積は進んでおりません。このため、現時点では統計分析に深みを持たせるために必要不可欠な長期間の時系列比較を十分に提示することはまだできませんが、今後、毎月定点観測で実施する調査結果の蓄積が進むにつれて、DIの時系列比較等から見出せるFX投資家の相場観の変化やその傾向などの把握も可能になってくることが期待されます。

毎月の本調査においては、公表扱いとしている質問項目及び回答結果の他に、「投資家の属性」、「取引頻度」、「取引規模」、「取引時間帯」、「投資選好」など、投資家実態を把握するために必要な各種の質問項目も設けて集計しています。それらの回答結果を用いた投資家の実態報告や属性別のクロス・セクション分析等については、当研究所が1年に1回、毎年年初以降に公表する「外為白書」で紹介する予定です。

【付表：主要3通貨ペア予想DIの推移】

		米ドル/円			ユーロ/円			豪ドル/円		
		米ドル高	米ドル安	DI	ユーロ高	ユーロ安	DI	豪ドル高	豪ドル安	DI
2009年	6月	21.0	35.2	-14.2	38.4	27.2	11.2	48.8	23.7	25.1
	7月	34.6	33.6	1.0	40.2	28.2	12.0	45.5	26.3	19.2
	8月	36.3	30.3	6.0	41.8	27.3	14.5	50.7	23.3	27.4
	9月	32.1	41.3	-9.2	38.0	23.5	14.5	45.1	21.1	24.0
	10月	45.5	24.7	20.8	51.1	17.4	33.7	60.5	15.4	45.1
	11月	22.9	41.8	-18.9	33.6	29.7	3.9	44.6	25.5	19.1
	12月	37.6	31.2	6.4	27.8	37.3	-9.5	41.4	24.0	17.4
2010年	1月	28.5	40.9	-12.4	24.6	45.7	-21.1	41.7	27.4	14.3
	2月	49.9	19.6	30.3	31.6	38.7	-7.1	56.9	14.8	42.1
	3月	37.6	20.9	16.7	30.3	38.2	-7.9	50.0	17.4	32.6
	4月	50.5	19.7	30.8	26.1	44.0	-17.9	53.3	17.5	35.8
	5月	33.9	37.2	-3.3	21.4	59.1	-37.7	40.3	37.1	3.2
	6月	35.9	19.1	16.8	32.9	38.0	-5.1	58.7	15.5	43.2
	7月	40.8	26.8	14.0	41.8	29.2	12.6	53.9	18.3	35.6
	8月	26.0	48.5	-22.5	25.2	48.7	-23.5	34.5	35.6	-1.1
	9月	22.3	43.9	-21.6	36.7	35.8	0.9	47.8	22.5	25.3
	10月	37.3	37.7	-0.4	29.3	37.3	-8.0	38.9	25.8	13.1
	11月									
	12月									
	1月									
2月										
3月										

(出所)外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com